# 白門経友会

## 多摩キャンパスは青葉が繁り、夏を迎えつつあります。

キャンパスのツツジが鮮やかな花を咲かせる季節は過ぎましたが、色々な花々が咲き始め、夏が近づいていることを感じさせるようになってきました。

新学期を迎えて早二ヶ月近くが経とうとしています。ＧＷが過ぎ、新入生を迎えたキャンパスの喧噪もおさまり、学生達はそれぞれ、勉学や課外活動にいそしんでおります。

さて、今年も下段のご案内のように定期総会を開催いたします。

この機会に是非母校をお訪ねいただいて、学生時代を振り返りつつ、学部の後輩達とともに楽しいひと時をお過ごし下さい。お待ちしております。

## 新入生交流会　ＴＡＭＡＲＩＶＡのご報告

二〇一〇年卒　局芳暁（常任幹事）

去る二〇一八年三月二十四日、経済学部棟にて新入生交流会タマリバを開催致しました。

昨年も開催させて頂き、もはや恒例となりつつあるこの交流会は、中央大学入学前の新一年生たちが抱える、大学への不安、友達作りという課題を解決するために行っているものです。

今回、七十五名の新一年生が参加し、互いの中を深めるようになりました。アイスブレイクから始まり、新入生同士のグループワークなどを行い、交流の機会を持つようになりました。アイスブレイクでは、在校生が司会となり、ゲーム等で会場を盛り上げました。

グループディスカッションでは、各グループに在校生とＯＢがファシリテーターとして入り、新入生の話を盛り上げました。クループディスカッションの話題は、高校時代に打ち込んできたことと、大学四年間で成し遂げたいことは何かという核心に迫る話題でした。各新入生が高校時代に打ち込んでいたことを話すことで、自分自身の強みを打ち明けることができ、大学四年間の成し遂げたいことを話すことで、大学での目標が明確化されたことと思います。

昨年から本格始動した「ＴＡＭＡＲＩＶＡ」というプロジェクトは、現在、八王子や立川、日野でもその活動の一端をなすようになっています。この活動を通して、少しでも彼らにビジョンを持ってもらい、より社会で活躍する人物になることを期待しています。

### 第２８回　白門経友会　定期総会のご案内

１．日時　６月９日（土）午後２時開会

２．会場　中央大学多摩キャンパス
　　７号館２階　７２０２教室

３．定期総会　１４：００－１４：４５
①　平成２９年度事業報告・決算報告
②　平成３０年度事業計画・予算案
③　その他

４．　記念講演　１５：００－１６：３０
講師　中條　誠一　教授
演題　「世界のお金（通貨）の面白話
　　-- ドル、ユーロ、人民元、そしてビットコイン --」

５．懇親会　１６：４５－１８：４５
会場　ヒルトップ２Ｆ　西側（旧ふらっと）
会費　ＯＢ（卒業５年以上）　７，０００円
　　ＯＢ（卒業５年未満）　３，０００円
　　現役学生　　１，０００円

・会費は、当日受付にて集金させて頂きますのでよろしくお願いいたします。

**第一号議案　二〇一七年度事業報告**

Ⅰ会議

1　二〇一七年度定期総会

日時　二〇一七年（平成二九年）六月一〇日（土）一四時

場所　中央大学多摩キャンパス七号館七一〇二号室

議案

第一号議案

二〇一六年度活動報告及び決算報告

第二号議案

二〇一七年度活動計画及び予算案

第三号議案

その他報告事項

以上、原案通り可決されました。引き続き、小口好昭教授より「那須疏水の開発と地域発展」という演題で講演して頂きました。

その後、会場をヒルトップ四階「和おん」に移し現役学生を交えた懇親会を開催いたしました。

2　常任幹事会

①二〇一七年四月二六日（水）
②二〇一七年五月三十日（火）
③二〇一七年六月三十日（金）
④二〇一七年七月五日（水）
⑤二〇一七年八月五日（土）
⑥二〇一七年十月十二日（木）
⑦二〇一七年十一月三十日（木）
⑧二〇一八年一月三十一日（水）
⑨二〇一八年三月八日（木）

Ⅱ行事

1　常任幹事会での学生との交流

従来より継続して実施してきている活動である。会合に現役のゼミ学生を招くことによりOBの具体的な経験談や効果的な学習方法や進路、キャリアに関しての助言などを学生が聞ける貴重な場とした。

さらに質疑を通して一層一体感を深めれる機会となった。

2　経和会懇親会に参加

二〇一八年三月八日（木）に退職される先生方の歓送

経済学部教員の親睦会である「経和会」の懇談会に招待され、白門経友会の常任幹事も参加いたしました。ここでは、本会を代表して齋藤顧問より挨拶していただきました。

Ⅲ会報の発行と主要記事

第六四号二〇一七年四月三日発行

卒業式・新入生歓迎・教員の投稿記事等

第六五号二〇一七年五月二十五日発行

新企画紹介・第二七回定期総会案内等

第六六号二〇一七年十一月十五日発行

定期総会の報告、学部の活動状況等

第六七号二〇一八年一月二十五日発行

学部の活動状況・OB投稿記事等

第六八号二〇一八年三月三十日発行

経和会報告・新入教員の紹介等

以上、計五回発行いたしました。

Ⅳ学生への呼びかけ

各ゼミ学生との交流を広げるために前述のとおり常任幹事会などへの参加を呼び掛けました。また今年度は中央大学夢企画プロジェクト「TAMARIVA」との連携で地域の学生たちとのコミュニケーションの場として、新入生との交流や陸上競技場でのスポーツ大会も開催し好評を博しました。

**第二号議案　二〇一八年度活動計画**

Ⅰ会議

1　二〇一八年度定期総会

日時　二〇一八年（平成三十年）六月九日（土）一四時

場所　中央大学多摩キャンパス七号館七二〇二教室

総会終了後、記念講演を実施する。

演題「世界のお金（通貨）の面白話―ドル、ユーロ、人民元、そしてビットコイン―」

講師　中條誠一　教授

2　幹事会

年二回程度開催する。

3　常任幹事会

年十回程度開催する。

Ⅱ行事

1　学部授業・ゼミへの協力。

学外および会員からの講師の推薦を経友会として協力支援する。

2　学部行事「キャリアガイダンス等」への協力。

担当する学生委員会及び学生運営委員会等と連絡を取りつつ全面的に協力する。

3　中央大学「夢」企画における諸活動への支援協力を行う。

4　白門経友会二十八年目を迎え会員同士の親睦を計り教職員及び学生との交流を深める行事を行う。

Ⅲ会報発行

会報「白門経友会」を年四回発行する。なお、前年度同様に原則として紙ベースでの発行を取りやめ、ホームページへの掲載とする。

Ⅳその他

1　学部の活動状況を積極的に会報を通して広報する。

2　白門経友会ホームページの内容の充実化として学生からの投稿を進める

3　多数が参加可能な講演等の開催

4　以上の活動を通して入会呼びかけの強化

以上

第 1 号議案（2）

## 2017 年度　決算報告書

自　2017 年 4 月　1 日

至　2018 年 3 月 31 日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 金　額 | 科　目 | 金　額 |
| 前年度繰越金 | 555,900 | 総会費 | 140,000 |
| 会費収入 | 330,000 | 会報発行費 | 50,000 |
| 総会費収入 | 104,000 | HP 維持費 | 25,920 |
| 寄付金収入 | 100,000 | HP 更新費 | 45,000 |
| 受取利息 | 2 | 振込手数料 | 432 |
| 雑収入 | 0 | 通信費 | 26,076 |
| | | 消耗品費 | 48,000 |
| | | 雑費 | 9,914 |
| | | 小計 | 345,342 |
| | | 次年度繰越金 | 744,560 |
| 合計 | 1,089,902 | 合計 | 1,089,902 |

次年度繰越金内訳

| | | | |
|---|---|---|---|
| 三井住友銀行八王子支店 | | 普通預金 | 65,516 |
| ゆうちょ銀行 | | 通常貯金 | 548,103 |
| 現金 | | | 130,941 |
| | 合計 | | 744,560 |

以上の通りご報告申し上げます。

2018 年 5 月 28 日

会長　　篠原 正博　　㊞

幹事長　　濱岡　剛　　㊞

監査の結果、いずれも正確かつ妥当であることを認めます。

2018 年 5 月 28 日

監事　　倉本　優　　㊞

監事　　森元　公和　　㊞

第 2 号議案（2）

## 2018 年度　予算案

自　2018 年 4 月　1 日

至　2019 年 3 月 31 日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 金　額 | 科　目 | 金　額 |
| 前年度繰越金 | 744,560 | 総会費 | 140,000 |
| 会費収入 | 300,000 | 会報発行費 | 50,000 |
| 総会費収入 | 100,000 | HP 維持費 | 30,000 |
| 寄付金収入（学員会補助金） | 100,000 | 交流費 | 100,000 |
| 受取利息 | 2 | 振込手数料 | 1,000 |
| 雑収入 | | 通信費 | 60,000 |
| | | 雑費 | 50,000 |
| | | 小計 | 431,000 |
| | | 次年度繰越金 | 813,562 |
| 合　計 | 1,244,562 | 合　計 | 1,244,562 |

## 経済学部　入学前特別教育プログラム（研究発表会）実施報告

武田　勝

経済学部では、二〇一八年度入学生より、高大接続教育の一環として、附属4校の生徒への入学前特別教育プログラムを実施することとなりました。経済学部に進学が内定した附属生を1組5名ほどのグループに分け、経済学部の教職員および他校生徒の前で研究課題の発表をする、というものです。経済学部の特徴の一つであるゼミ活動の一端を体験してもらい、自信と誇りをもって経済学部に入学してきてもらうことを目的としています。そこには、附属出身者が進学後、経済学部のコアとして活躍してほしい、という経済学部教職員の願いが込められています。

研究発表のテーマは、経済学部の若手教員が執筆した『高校生からの経済入門』（中央大学経済学部編、中央大学出版部）から4つ出題されました。たとえば同書第5章では、高校生と国の借金の問題が論じられており、出された課題は次の通りです。

「希望する誰もが大学で学べるように、学費を無償化すべきだとの議論があり、その財源として、『教育国債』が考えられています。①希望する誰もが大学で学べるように、大学の学費を無償化すべきですか。②その財源として、『教育国債』、つまり、教育無償化のために、借金することは望ましいですか。」

まさに大学に進学しようとしている高校生にとって身近な課題でありながら、これを根拠をもって論ずることは、簡単ではありません。

事前準備として、まず一月末に、多摩キャンパスにて、研究や発表の仕方などのガイダンスを実施しました。また、研究発表会当日（三月一二日）までに、研究内容の相談ができるように、多摩キャンパスにて事前相談会を4回ほど実施しました。同時に、専用掲示板を設置し、事前相談会以外でも相談・質問に応じる体制を整えました。

当日は、多摩キャンパス7号館1階の4教室に、4つの課題ごとに10～11チームに分かれ、各チーム持ち時間約10分の研究発表が行われました。担当教員の総括講義、優秀賞（1位、2位）の発表・表彰、参加生徒と引率の先生方も交えた振り返りもあり、たいへん充実したひとときとなりました。

参加した高校生からは、「自分と異なる意見が出るグループワークの難しさを感じたが、そこが面白く、新たな視点を獲得できた」「終わって初めて、もっと頑張れば優秀賞を取れたのかなと思うと悔しい。同時に、悔しいと思えるほどに頑張っていたのだとも実感した」といった感想が寄せられました。また、引率の先生方からは「高大接続改革の叫ばれている中で、このような取り組みは先進的な例になるのではないか」「生徒たちはこの勉強と発表を通じて『真剣に楽しむ』ことを体験できたのではないかと思う。卒業式以降も多くのグループが学校を訪れ、先生方に頼み込んでリハーサルを繰り返す様子が見受けられた。こうした姿勢を喚起できただけでも、このプログラムは成果をあげたと言えるのではないか」といったコメントを頂きました。

こうした感想をみれば、この企画はひとまず成功だったと総括できますが、真のゴールは、冒頭に掲げた通り、附属出身者が経済学部のコアとして活躍し、経済学部を卒業しても、10年後、20年後と、社会で活躍してもらうことにあります。その時にまた、このプログラムの成否を総括できればと思います。

2018年5月25日　第69号
発行　白門経友会常任幹事会
編集　白門経友会編集委員会
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1
中央大学経済学部内
URL : www.wg-keiyukai.com
Fax : 042-673-3425

＜おめでとう！優秀賞受賞！＞

＜約2か月に渡る研究の成果を発表＞